



### 今月は「アゼルバイジャン」を覚えてお祈りください

アゼルバイジャンは、南コーカサスに位置する共和制国家。東ヨーロッパに含められることもある。北はロシア、北西はジョージア(グルジア)、西はアルメニア、南はイランと国境を接し、東はカスピ海に面する。アルメニアをまたいで西南方に飛地のナヒチェヴァン自治共和国があり、アルメニア、イランおよびトルコと接している。首都はバクー。アルメニア人が多数居住する西部のナゴルノ・カラバフ地方は、事実上独立した状態となっている。

### アゼルバイジャンの経済・政治・宗教について

もともとはイラン系の人々が住んでいたこの地域に7世紀にアラブ人による支配がおとずれる。当時の住民はゾロアスター教徒が多かったが、緩やかにイスラム化が進んでいく。11世紀～13世紀、セルジューク朝の下でイスラム化が推し進められる。17世紀にサファヴィー朝が起こり、テュルクメン系の住民がシーア派へ改宗していく。アゼルバイジャン人(アゼリー人)と呼ばれる民族が形成されていった。

1804年に始まった第一次ロシア・ペルシア戦争の講和条約でアゼルバイジャンの大部分がロシアに編入された。ロシアの統治下でアゼリー人の民族意識が高まる。1918年にはアゼリー人民族主義者たちが民主共和国を打ち立てることに成功するが、イギリス軍によって占領され、これに反応した赤軍が首都バクーに侵攻しソビエト政権が成立した。1936年にソビエト連邦を構成する共和国の一つになったが、旧ソビエト連邦解体後の1991年8月30日、共和国としての独立を宣言する。

カスピ海にある豊かな原油資源が経済を支えている。しかし、実際にその恩恵を受けているのはエリート層の一部のみで、国民の40%はいまだ貧困に苦しんでいる。1993年以来、ヘイダル・アリエフが大統領として強権的な政治を引いてきた。2003年にアリエフ氏引退後、長男のイルハム・アリエフが大統領となり権力の世襲委譲が果たされた。

大多数はイスラム教徒である。信教の自由は法律上認められているが、実際にはイスラム教以外の公の布教活動は監視されており場合によっては厳しく制限されている。

### アゼルバイジャンのその他の情報

面積:86,600 km<sup>2</sup> (日本の約 23%) 人口:8,933,928 (日本の約 7% 2010年時点)



首都「バクー」



アゼルバイジャンの子どもたち



アゼルバイジャン料理

宗教:	
イスラム教	87.58%
無宗教	9.55%
キリスト教	2.74%
ユダヤ教	0.11%
バハイ教	0.02%

**「最も小さい者も民族となり、最も弱い者も強国となる。  
時が来れば、わたし、主がすみやかにそれをする。」イザヤ書 60章 22節**  
祈禱課題

### 未伝部族を覚えて

アゼルバイジャン国内のほぼすべての町や村には一度も福音を聞いたことがない人々が多くいる。貧困や困難の中にいる人々…油田関係の仕事に就ける幸運な少数を除いて、仕事に就けないままにいる人々が多い。戦争や領土争いの問題によって定住地をもっていないアゼルバイジャン人が80万人もいるとされている。この人々はきれいな水へのアクセスに乏しく、その他にも長期的な解決を必要としている問題を多く抱えている。ここにクリスチャンがキリストの愛を示す慈善の機会がある。

コーカサスの民族…この民族はイスラム教徒でありイエスの福音を聞いたことがない。例外は伝統的に東方教会に属しているグルジア人やウディ人である。特に、レズギ人、アバル人、ツアクル人、クリズ人、ブドク人といった民族が未伝部族である。

インド・イラン語を話す少数民族…タリシュ人、タ人そしてクルド人たちも未伝である。

### アゼルバイジャン内や隣国との平和のために

アルメニアとの緊張は続いており、お互いに紛争や争いによる犠牲者が多く出続けている。領土についてはロシア、トルコ、グルジア、イランなどといった国との緊張も続いている。アゼルバイジャンの軍事費は増え続けているが、長期的で外交的に有効な解決はまだ見つかっていない。国内外で平和をつくりだすために、国のリーダーシップに知恵に満ちた器が多く必要とされている。